

'67

OUR HOLIDAY
ON SNOW

1967.3.1 ~ 6.

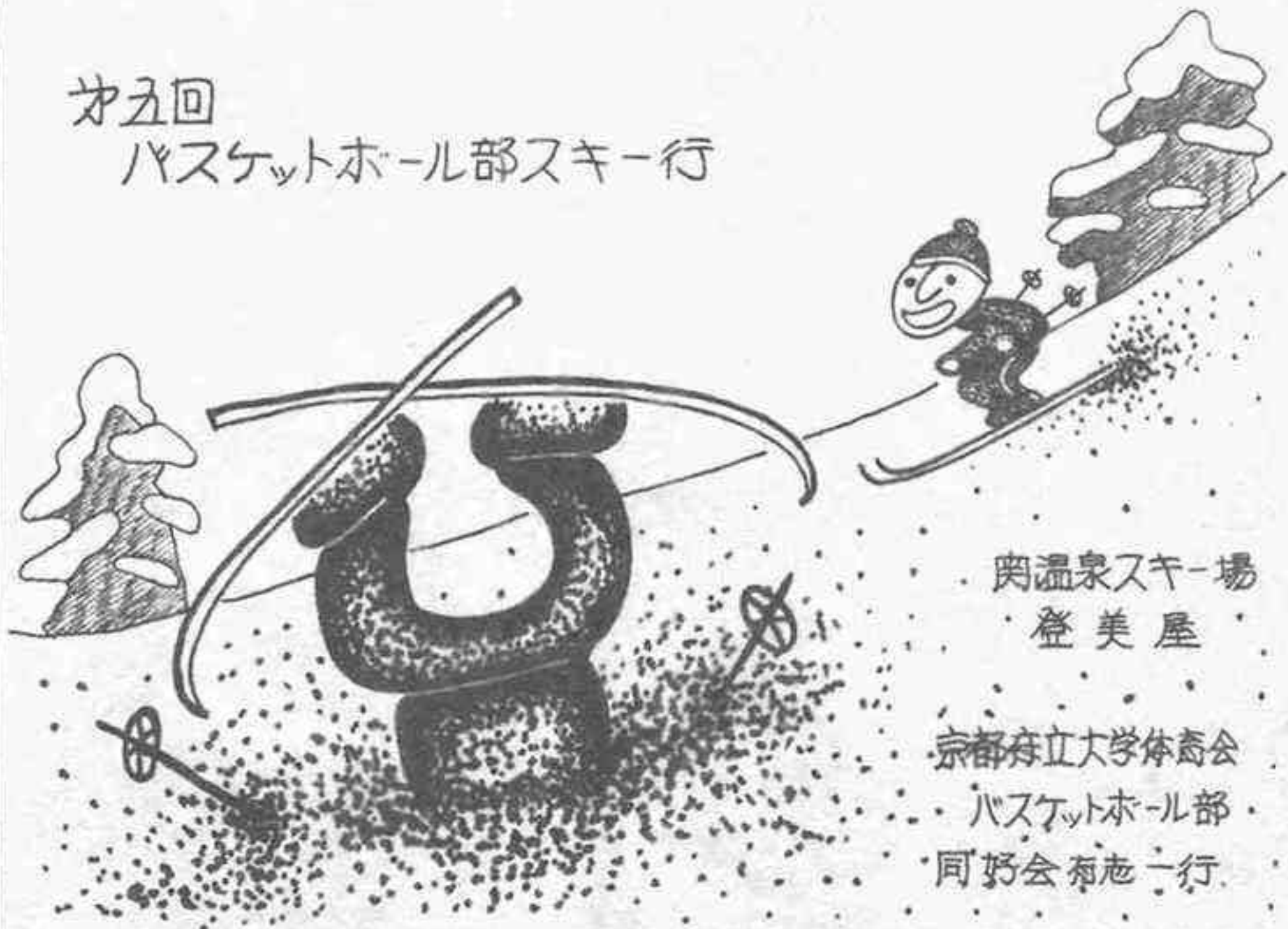
K.P.U. B.B.C.

バスケットボール部先輩、現役の諸兄弟御健勝で良いお年を迎えられたことと御推察申し上げます。本年もバスケットの恒例の行事であるスキーの季節がやってきました。先日と部外の人から「今年のバスケットのスキーはどのようなのですか？」と向われ驚きました。何故この関係のない人が知っているのだろうか。やはりバスケットのスキーは、関スキー場のテレビで朝は一番早くから夜一番遅くまで楽しんで転んでいるのが京大のバスケットの連中、食事と夜の団欒 etc とと一つを取り上げて有名になるものばかり、それ程楽しいものだからでしょう。これでは聞かれるのは至極当然です。また一ツ年をとりますますます元気がなくなりますが、まだまだ気だけは負けないつもりです。みなさんと共に、一緒に転びます。いやこれは失礼、覚悟しております。サラリーマン諸兄弟と年に一度の休暇を鬼う存分活用して楽しみにして一度行きましょや、行ってみて下さい。小まとも出来るかぎり参加させて頂きます。

本城尚也



第五回
バスケットボール部スキー行



奥温泉スキー場
・ 登美屋

京都府立大学体育会
・ バスケットボール部
同好会有志一行

三年ぶ当時一回生でありました私達、鍋島・船崎・大野・平井の四名は来たるべき学年末試験に備えて2月に入るとBOXに籠りました。イスを並べシュラフを借りて本城会長始め諸先輩の暖かい御支援のどとにかんはる事14日、文字どおり寝食を共にしテストを共にしそして、"あゝあゝ、試験が終、たらあれをしこれをして……"と共に語り合い、その中で誰言うもなくスキーに行きたいなあと話し合うようになりました。語学の試験の一段落した、冬にはめずらしく良く晴れた日にこの合宿を一応終える頃には、鍋島の義姉さんの紹介で鉢伏山へのスキー行の計画がほぼ出来上、ていました。鍋島・船崎・平井の三名に二朗さん、浅井さん両三回生を加えて、2月25日、出席しなければ三回生に進級出来ないかとしれぬというドイツ語の補講をす、ぼかしてかけつけた平井、生れて始めてこんなきょうさんの雪を見たバス窓から歓声をあげた船崎、南国土佐の生れのくせに一番うまか、た鍋島、ネンサで1日寝た二朗さん、生れて始めてスキーに乗、た浅井さん、つきぬ才一回の思い出です。

スキー行が2回から舞台を関に覆しました。1965.2.26. 夜行で大阪を出たメンバーは本城さん、小島さんの両OB、二郎さん、浅井さんの両四回生、鍋島、平井の両三回生、加島、豊島、奥、円井、岡田の一回生五名、それに部外から沢田、安藤両氏を加えた13名。毎日のように夜のうちに積った新雪の上を滑るといふすはらしいコンディション。28日全員で赤倉へツアー。平井池の平でキャンを失う。小島さんと他と赤倉で別になつた為、1人おそくなられ掃索隊出動す。3月1日。朝7時から夜10時まで滑りまくり関のケシテを占領す。キャニータ方帰る。2日。応れもののレインシューズとサフをキャニートとけん、と平井7時に関山まで走り出す。昼本城さん、二郎さん、浅井さんナベ、ハンチャン帰る。3日燕から赤倉へ。安藤さん電報が来て帰る。4日朝口コ帰る。夕方、テコ、サッチン帰る。6日平井細野へ発つ。こうして数々の思い出をのこして2回のスキー行は成功裡に終り今日まで続くスキー行の基礎が固まつたのをこした。

才三回の発案者はロコでした。正月にスキーに行きたいが……という話か
だんだんどこかで大きくな。で最後には総勢11人とな。た。1966年1月10日
奥に待機中の平井・沢田の赤にまず現われたのがロコ、チャコ、藤原さん。13
日、ナベからの電報で3人を待ってこれが本城さん、妹尾さん、鯛島。14日、
又も3人が到着。松岡さん、テコ、ミコのメンバー。いつ、だれか、どうい
う風に来るか解らない。待、ている者にと。こはひどく気苦勞の多いスキー行
でしたか楽しさはそんな事を雪煙の彼方へ追いや。で余りあるとのでした。
コーヒーをかけたろ下からケルン氷向。でチョッカッたり。ロマンチックムードの上
のケルンテまで星を見に行。たり。そして15日、午後赤倉へ移動。相と変らすの
マジャンをや。たり。16日松岡さんを見送。たあとウイスキーを仕入れてホテルの
ケルンテへ上り。真昼間からケルンテのまん中に時ならぬ酒盛りをはじめたり。
ウイスキーコ-うのビール入りに酔。で赤倉の街をよた。で回。たり。宿館の泊
りの安くあが。た分て17日、帰りの駅弁を買。たり。……とこと書ききれません。

才四回は四回生の卒業旅行をした。3月3日卒業発表のあと講座の引き継ぎ
 とそこそこにかけつけた平井。朝9時からかんは、てすくマの最前列に並んでく
 れた鍋島。2年振りにスキーに乗る船崎。何しろ生れて始めこの借り物す
 くめ。たよりになるのは自赤のフソ鹿胸のみという大野。それに本城さん。ロ
 コ。鶴飼さん。イッチャン・ピピの一回生。関へ着いたら一足先に池の
 平から来ておられた若原さん。1日おくれで本巻した西田は5日の昼に。体
 育課の講習からは平井が連絡に池の平まで走。て小森先生。マッチャン。
 オヤファンと顔を見合わせる。例によ。て例のごとくの大さわき。ロコ念後の
 スノーボードに乗る。同じくりフト乗務員とコネをつけて大いにタタ乗りを楽
 しむ。松本。上のケシントのあまりの鬼さにベソをのいてナベにひやかさ
 れる。大野始めことは鬼えぬ器用さをみせる。ナベ。チャンチャンコを愛用す。
 つナ。他人のストックを折る。西田。若原さんより真夜中に持訓をうける。
 8ミリを写して後日の証拠とする。平井。全関西学生スキーに備えて赤倉へ。
 本城さん。ロコ。スキーを置いて帰る。若原さんラストに帰京。等々。